

日経新聞

7月18日

「欧州企業、ガス枯渇と経営難」

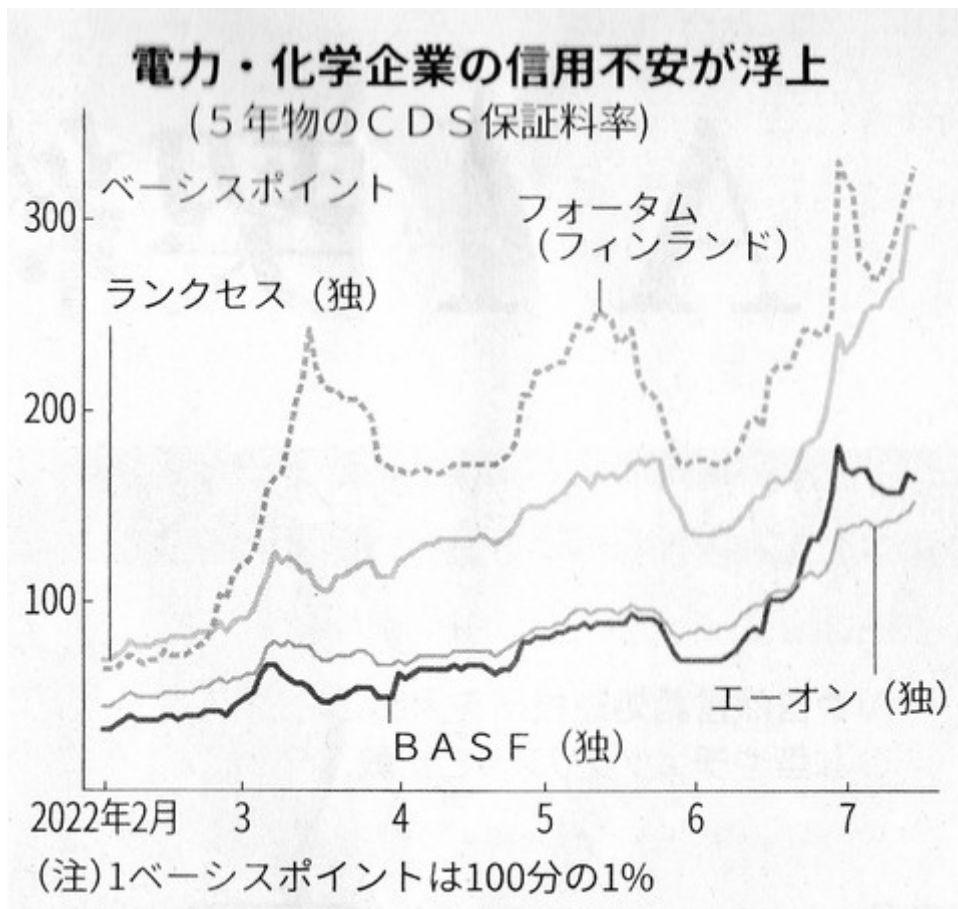
蛭田和也記者の署名記事

1. 欧州企業に危機が迫っている

最大の問題は天然ガスパイプライン「ノルドストリーム」の全面閉鎖。もしそうなると、欧州の在庫は絶望的に厳しいものとなる。

とくに電力・ガス会社と化学メーカーでリスクが高まっている。

化学工業の打撃が大きいのは、肥料の原料となるアンモニア製造に大量のエネルギーを要するからだ。軽金属産業も同断だ。

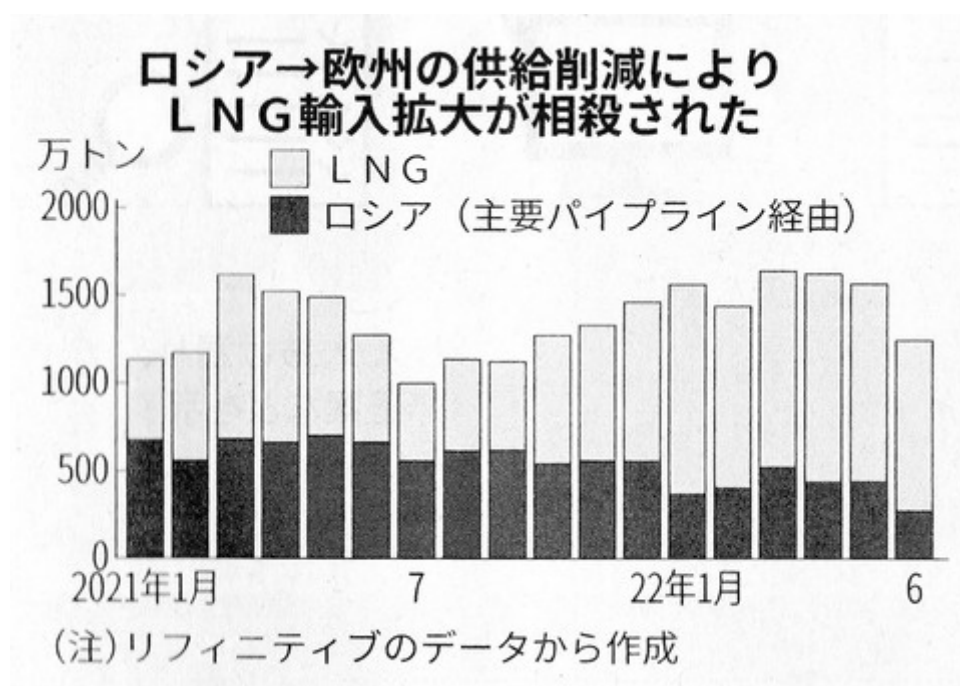


独 BASF の CDS は 2.4 倍となった。独ユニパーを傘下に持つフィンランド・フォータム社も 9 割上昇している。

(CDS: クレジット・デフォルト・スワップ。企業の債務不履行リスクを示す。欧州金融危機以来おなじみの数字)

2 . 輸入先開拓は絶望的

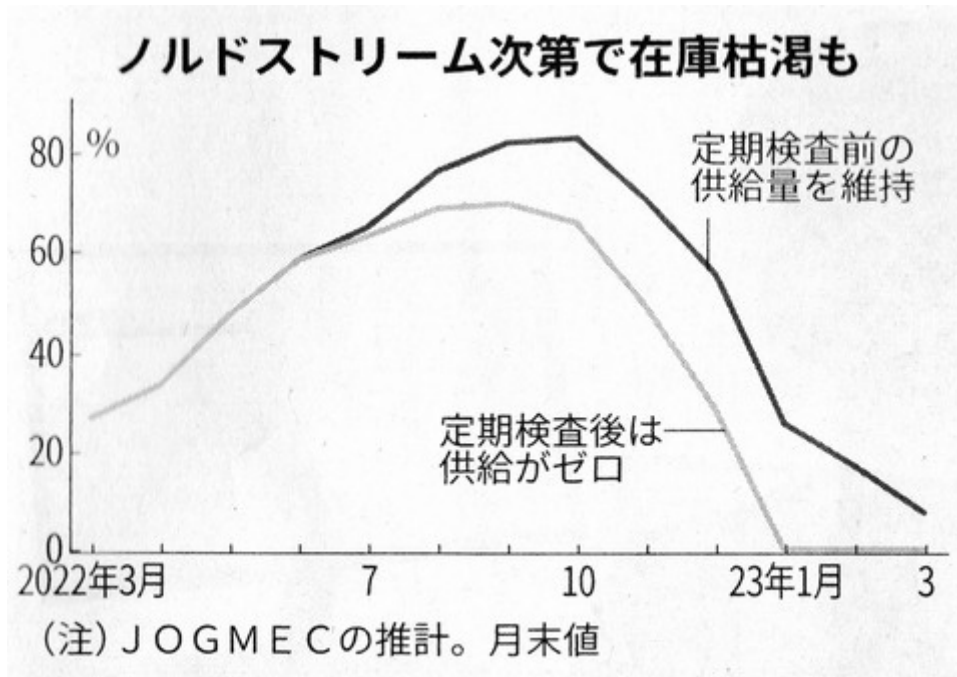
欧州諸国はロシア産天然ガスに代わる輸入先を求めている。その活動を通じて分かったことは、完全な代替は不可能だということ、代替できたとしてもそのコストは経営を成り立たせなくするほどのものになりそうだということだ。



3 . 7月22日がXデー?

7月11日から点検のため閉鎖しているノルドストリームが再開される日だ。しかし今も「検査後も、供給が途絶えたままになるのではないか」とい

う不安が渦巻く。



ノルドストリームは欧州全体の消費量の1割に相当する命綱だ。

たかが1割とは言えない。22日以降ノルドストリームが閉鎖されたままだった場合、在庫カーブは灰色の線を描いて来年1月中旬にエクスパイアーする。

この場合、経済に余力があるドイツより先にイタリアなど欧州金融危機の際のPIIGS諸国でまず危機が顕在化するだろう。その時、ドイツに弱小国を支える余裕はないだろう。